

授業科目名	地域看護学実習Ⅰ	担当教員	伊藤智子、榊原文、竹田裕子 他		
開講年次及び学期	4年 前期	必修・選択の別	必修		
開講形態	実習	時間数	135	単位数	3
授業の目的（概要）					
<p>地域看護学実習Ⅰは島根県内の市町村、保健所で3週間の実習を行う。地域診断、家庭訪問、健康教育、健康相談・健康診査、地区組織活動、関係機関との連携等の実習内容を体験することで、公衆衛生看護学に必要な知識、技術、態度を学ぶ。</p> <p>保健師国家試験を受験するために必要な科目であり、保健師課程で学んできた知識、技術を統合し実践をする科目である。</p>					
学修成果（到達目標）					
<p>1.地域の健康課題を明確にし、問題解決のための計画・実施・評価・改善の過程が理解できる。</p> <p>1) 地域の社会・経済・文化的特性をふまえた情報収集およびアセスメントを行うことができる。</p> <p>2) 個人及び集団の顕在的、潜在的健康課題を見いだすことができる。</p> <p>3) 健康課題を解決するための保健事業を企画・立案、実施、評価、改善する過程が説明できる。</p> <p>4) 発達課題別の保健活動について計画、実施、評価、改善の過程が説明できる。</p> <p>2.健康づくりにおける個別的・集団的・組織的取り組みが説明できる。</p> <p>1) 家庭訪問の一連の過程を理解し、個人・家族の健康課題を考えることができる。</p> <p>2) 個別支援事例の支援記録を書くことができる。</p> <p>3) 健康教育の一連の過程を展開し、実施することができる。</p> <p>4) 地域組織、グループの支援、育成について説明できる。</p> <p>3.地域の社会資源と地域ケアシステムが説明できる。</p> <p>1) 保健事業が関連する基本法令や制度について説明できる。</p> <p>2) 公衆衛生看護活動の実践機関である保健所と市町村の機能と役割を説明できる。</p> <p>3) 保健・医療・福祉との連携や住民との協働における保健師の役割が説明できる。</p> <p>4.地域の健康危機管理が理解できる。</p> <p>1) 地域で発生する健康危機について理解できる。</p> <p>2) 健康危機の予防活動について理解できる。</p> <p>3) 健康危機発生時の関係機関との連携について理解できる。</p>					
キーワード					
保健師、公衆衛生看護、地域看護、地域アセスメント、地区組織活動、家庭訪問、健康教育、保健指導、乳幼児健康診査、特定健診					
授業の進め方					
3年次の各領域の看護学臨地実習がすべて終了した学生が履修できる。 島根県内の16市町村と7保健所で2クールに分かれて、3週間の実習を行う。					
成績評価の方法（合否基準）					
事前学習や実習前の準備、実習態度、実習の記録、実習のレポート、学内発表によってトータルに判断する。					
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材					
<p>標準保健師講座 1 地域看護学概論, 医学書院, 最新版 標準保健師講座 2 地域看護技術, 医学書院, 最新版 公衆衛生看護学 Jp インターメディカル 国民衛生の動向 日本看護協会監修: 保健師業務要覧, 日本看護協会出版会, 最新版</p> <p>参考図書 平野かよ子編集: 最新 保健学講座 5 公衆衛生看護管理論, メヂカルフレンド社 麻原きよみ編集: 公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論 医歯薬出版 佐伯和子編集: 公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術 医歯薬出版</p>					
オフィスアワー					
伊藤智子(地域・老年看護学講座) 質問等随時受け付けます					

モデル・コア・カリキュラムとの関連

A-1-1)看護職としての使命、役割と責務

ねらい：自分の責任と能力を認識したうえで、その範囲内で責務を果たす。

学修目標：

④自分の責任と能力の範囲を知り、可能な役割と責務を果たすことができる。

A-2-2)看護実践能力

ねらい：統合された知識・技術・態度に基づき、根拠に基づいた全人的な看護実践を学ぶ。

学修目標：

④看護実践能力を自己評価し、必要な学修ができる。

A-5-1)保健・医療・福祉における協働

ねらい：様々な人々と協働し、チームの一員として看護職に求められる役割を果たすための基盤を学ぶ。

学修目標：

③様々な人々との協働を通して、健康上の者課題への対応に参画できる。

A-7-2)保健・医療・福祉等の多様な場における看護職の役割

ねらい：保健・医療・福祉等の多様な場における看護職の役割について学ぶ。

学修目標：

②地域社会の変化、保健医療福祉の動向を踏まえ、今後の看護職に求められる役割や責任について考察できる。

F-1-1)臨地実習における学修

ねらい：「A看護系人材(看護職)として求められる基本的資質・能力を常に意識しながら臨地実習を行う。

学修目標：

①プロフェッショナリズム

②看護学の知識と看護実践

③コミュニケーション能力

④保健・医療・福祉における協働

F-2-3)チームの一員としてのケア参画

ねらい：チームの一員として、チームメンバーの指導を受けながらケアに参画すること、また実習グループメンバーによる協働学修を通じ、多様な場で多様なニーズを持つ人々に対応するための基本的能力を育成する。また、チームの一員として活動できる態度を養う。

学修目標：

③チームメンバー(指導者)の指導の下、看護の実践および報告・連絡・相談ができる。

④カンファレンスにおいて自身の意見を表明し、メンバーの意見を聞くことができる。

実習内容

<学内事前学習>

- 1) 実習に向けて、既習の地域看護学概論、地域看護学活動論、地域看護学演習の学習を復習し深める。
- 2) 各実習地域についての地域の情報を収集し、地域診断を行う。
- 3) 実習指導者と連絡を取り、健康教育指導案および必要な指導教材の作成準備をする。

<第1～2週実習>

- 1) 市町村の公衆衛生看護活動について理解する
- 2) 事前学習した地域診断を元に地域のヘルスニーズと保健事業の計画、実施、評価を学ぶ。
- 3) 家庭訪問を実施する。
- 4) 健康教育を実施する。
- 5) 地域保健活動を体験する。
- 6) 健康相談・健康診査を体験する。
- 7) 関係機関との連携や社会資源について学ぶ。
- 8) 中間カンファレンス、最終カンファレンスを学生が主体で実施する。

<第3週実習>

- 1) 保健所の公衆衛生看護活動について学ぶ。
- 2) 健康危機管理について学ぶ。
- 3) 市町村と保健所の連携について学ぶ。
- 4) 家庭訪問、地域包括ケア活動等の保健事業に参加する。
- 5) カンファレンスを学生が主体で実施する。

備考

- ・ 地域看護学概論、地域看護学活動論の学習が未修のものは、履修が難しい。
- ・ オリエンテーションに参加すること
 - 第1回 概要の説明、実習希望先の調査（12月）
 - 第2回 実習先の決定、事前学習課題の説明、実習時の宿泊についての説明（3月）
 - 第3回 実習の手引きの説明、実習前準備の説明（4月）
- ・ コロナウイルスへの感染対策を十分にとり、現地での実習を行う。実習地の状況に応じて中止となる場合もある。その基準は別に定める。
- ・ 実習時間は原則として実習機関における職員の勤務時間とする。
- ・ 実習施設によって宿泊が必要になる。宿泊先は学務課と相談し事前に予約をする。
- ・ 実習期間中は各実習施設の実習指導者の指示のもと、積極的に地域活動に参加し地域住民から学ぶ。
- ・ 実習終了後に学内で実習まとめ発表会を行う。各実習施設ごとに実習成果をパワーポイント等を用いて発表する。